

うつろいの ブラームス

府中市民響×伊藤翔

府中市民交響楽団

Sho Itoh 指揮

ニコライ 歌劇『ウィンザーの陽気な女房たち』序曲

C.O.E. Nicolai: Overture to "The Merry Wives of Windsor"

ワーグナー 歌劇『ローエングリン』〈管弦楽版〉より

第三幕への前奏曲～婚礼の合唱

エルザの大聖堂への行列

R. Wagner: From "Lohengrin"

2024年
5月26日(日) 13:30 開場 / 14:00 開演

ブラームス 交響曲第4番 木短調 作品98

J. Brahms: Symphony No.4 in E Minor Op.98

調布市グリーンホール 大ホール 全席自由 1,000円 <当日券あり>

14:00 start, Sunday, May 26th, 2024 at Green Hall in Chofu

チケット
の取扱い

窓口販売 調布市グリーンホールチケットサービス および 調布市文化会館たづくりインフォメーション
でお買い求めください <3月1日(金)より発売>

電子チケットサービス "teket" <https://teket.jp/8978/30955> ▶
<電子チケット販売期間：2月18日(日) 14:00 ~ 5月26日(日) 14:00>

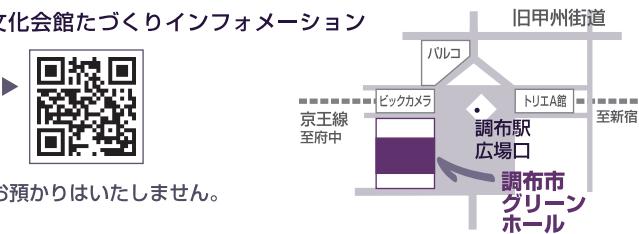


- 点字チラシとプログラムをご用意しております。詳細は当団 Webサイトをご覧下さい。
- 小学校入学前のお子様のご入場はご遠慮下さい。●花束を含む出演者へのプレゼントのお預かりはいたしません。

お問い合わせ : info@fuchu-cso.org / 大橋康廣 042-368-6180

主催 : 府中市民交響楽団 <https://www.fuchu-cso.org/>

後援 : 府中市 協力 : 点訳ボランティアてまり



京王線調布駅広場口から徒歩1分／駐車場はございません
文化会館たづくり駐車場 または 近隣のコインパーキングをご利用ください

指揮 伊藤 翔 Conductor Sho Itoh



©Jun Yoshimura

桐朋学園大学指揮科卒業。ローム音楽財団の奨学生を得てウィーン国立音楽大学へ留学。

指揮を秋山和慶、小澤征爾、黒岩英臣、E・アチエル、湯浅勇治、K・マズアの各氏に師事。

第5回ルトスワフスキ国際指揮者コンクール第2位。第1回ニーノ・ロータ国際指揮者コンクール第1位、及びオーケストラ賞を受賞。第26回エネルギア音楽賞受賞。

これまでに大阪フィル、大阪響、神奈川フィル、九州響、京都市響、群馬響、新日本フィル、仙台フィル、都響、中部フィル、東京シティ・フィル、東京フィル、東響、名古屋フィル、日本センチュリー響、日本フィル、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団、広島響、山形響等に客演。海外では、ジェショフ・フィルハーモニー管弦楽団やアブルツツェ交響楽団への客演が好評を博す。

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員、神奈川フィルハーモニー管弦楽団副指揮者、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスを歴任。また合唱指揮者として2017、2018年NHK交響楽団の公演を成功に導いた。

2023年4月より東邦音楽大学非常勤講師。

ブラームスの残した4つの交響曲、

——それぞれブラ1^{イチ}、ブラ2^ニ、ブラ3^{サン}、ブラ4^{ヨン}、と呼ばれるが——

6年前の春にブラ3を演奏した際、4曲の中で一番好みはどれか?と聞かれたら「弾くならばブラ1、聴くならばブラ4」と答える話を書いた。この春はその"聴くのは大好きな"ブラ4がメインである。

「五十にして天命を知る」と言われるが、ブラームスがこの**交響曲第4番**に着手したのはまさにその51歳。親友とは破綻したり絶交したり、親しい知人とは死別したりと、途方もない孤独の中にありながらも野心を燃やして書かれたとされ、ブラームス自身が「最高傑作」と語っている。

第1楽章冒頭、指揮者がエイッと振りかぶることなく、どこからともなくそれは始まる。当初その前に4小節の導入部構想があつた、つまりもっと容易に演奏が始められる構想があつたようだが、結果的に削除され、このなんとも切なくはない(そして超難関の)出だしになつたらしい。途中、タンゴのリズムのような伴奏や、穏やかなフレーズも見え隠れするものの、淋しさと孤独感に覆われたまま、悲痛な叫びで楽章を終える。続く**第2楽章**はホルンの呼びかけに始まり、温かく優しい旋律がゆつたりと続くが、もの悲しさはやはりぬぐえない。木管楽器はもちろん、ヴァイオリン、チェロ、そして珍しくヴィオラにまでオイシイ役が回ってくる一曲。**第3楽章**は一転、ジョコーソ(おどけて陽気に)! どういう心境の変化か、ひたすら明るく力強いフレーズが続き、トライアングルが鳴り響く。ちょっと違和感はあるが、難しい解説は他に委ねたい。再び短調に戻る**終楽章**でトロンボーンが初登場(奏者はここまでじつと待つこと約30分)。バッハのカンタータから着想されたといわれるシャコンヌ(=変奏曲の一種、パッサカリアともいう)で、トロンボーン率いる最初の主題は、郷愁を誘いながら30変奏まで続く。この終楽章、日本人なら誰でも「好き~」と思う曲のひとつではないだろうか。

20代で、そして30代でもこの曲を演奏したが、重厚な音に包まれるのが嬉しく、オイシイ旋律に張り切り、ハ長調のスケルツォではつちやけて、シャコンヌを遠慮なく演歌調にし、興奮しながら汗だくで本番を終えた。今思えばただただ若気の至り…。ブラームスと同じ歳になった今、不思議なことに全く違う曲に聴こえる。天命をわきまえたブラームスによる「大人の曲」だな、とあらためて感じている。これは汗をかく曲ではないのだろうと。本番の舞台がどんなに熱(暑)かろうとも。

* * *

さて、私共府中市民交響楽団が活動拠点としている府中の森芸術劇場は、2024年度は改修工事のため休館となります。開館当時から当団の練習場所として本番会場として、ほぼ毎週欠かさず通う憩いの場でもある劇場は、もう開館32年になるとのこと。1年かけてどのようにリニューアルするのか今から楽しみです。

代わりに、この春はお隣の調布〈調布市グリーンホール〉にて、秋は反対側のお隣の日野〈ひの煉瓦ホール〉にて、定期演奏会を開催します。本番に向けて変わらず精進してまいりますので、府中から少しだけ電車に乗っていただいて、お隣までどうぞお出かけください。

団員一同、お待ちしております!

デザイン: 原田和香(チェロ)